

「まずはお茶をどうぞ」

広島県 寶持寺住職 山下崇晴

最近、小学生の子供をもつ親御さんから「ウチの子供は、何故か和尚さんのいれてくださったお茶だけは飲みたがるんですよ」と言われました。私が住職をつとめるお寺の自慢は、能美島最南部にある陀峯山の地下からくみ上げた美味しいお水です。お寺を訪れた方には、まずお茶をお出しするよう心がけています。

お茶を美味しくいれるポイントは、急いだり慌てたりしないこと。お茶の葉の個性に合わせて、量を多くしたり、少なくしたり、また気候や、飲む人の状態に合わせて、微妙にお湯加減を調整することも大事なポイントです。たったこれだけの事ですが、お茶を入れる人の心持ち次第で味わいに大きく差が生じます。その分、相手に真心が伝わりやすいのが、お茶の良いところです。お茶をお出しすると、大概の皆さんはホッと一息ついて、穏やかな気持ちで話されます。

お寺を訪れる人の理由は様々ですが、中には、過去の出来事や、未来の心配事に捉われて苦しんだり悩んだり、人に心を閉ざしている方もいます。しかし、お寺にいる間だけはそうした思いを離れ、「今」という時間を共有し、清々しい気持ちでお帰りいただけるようお願いを込めてお茶をお出ししています。

仏教には、漢字で「同じ事」と書く「同事」という教えがあります。その意味は「相手と心をつなげる」ことです。つまり、まず相手の立場や気持ちになって考え、共に悲しみ共に喜んだりするという意味です。長期化するコロナ禍で、孤立する人が多くなっています。今こそ、この「同事」の教えが大切です。「同事」は、誰でもどこでも実践できます。お互いが思いやりを持ち、相手に真心を伝えていけば、どんな形でも「同事」の行いとなるのです。